

コミケピギナーのための 超・速・解 アドバイス

ComiNavi

今回も会場がフルに使えてサークルも企業も大充実！
ただでさえ慌ただしい年末のその最後の最後だけに色々と
調整不足になってしまいがちな冬コミですが、ぶっつけ本
番で挑んではもったいないですよ！

できるだけでも事前の準備を頑張っ、いざ平成最後の
コミケットを楽しみましょう！



■■着た・動いた・暑かった■■

暑さに対する対策と異り、防寒には限りがない。最大限の防寒対策を講じれば人類は零下40度以下の気温の中でも活動可能だ。しかし言うまでもなく冬コミに参加するのならそんな大仰な装備は必要がないどころか、まったく邪魔でしかない。

冬コミの環境では多くの参加者の場合、非常に寒い環境で待機する時間よりも、ほとんど寒さを感じないホール内で同人誌を買いまわる時間の方が長い（屋外の風が吹き込むシャッター前付近配置のサークル参加者を除く）。しかし未明から入場待機列に並び入場後も大手列に並び、といった状況が想定されるなら、屋外で待機する時間の方が長くなるだろう。

これだけでも、必要となる防寒対策はちがってくるのが分かるはずだ。

『的確な防寒対策』とは、本来いくらでもできる防寒から、寒さで体力を消耗しない、かつ着ぶくれ過ぎて邪魔にならない、必要最低限のラインを読み取ることなのだ。

■『健康で活動的な最低限度の防寒』という思想■

人間が長時間寒い場所で過ごす、周囲に奪われていく熱量が身体の熱生産量を上回り、その状況のまま放置すると、やがて低体温症に陥る。

逆に、人間が一定以上の時間活動すると、主に筋肉の活動によって体温が上がり、その状態が続くと真冬でも汗をかく。人体が活発かつ過熱せず活動可能な状態というのは、かなり狭い温度域でしかない。

『寒ければ着ればいい、暑ければ脱げばいい』とは言うが、それを実現するためには、かなりデリケートなコントロールが要求されるのだ。

では、どうやってそれをコミケットの会場で行うのかを考えてみよう。

●寒い暑い気温次第

至極当たり前のことだが、同じ服装をしていても夏では暑く冬では寒い。これは周辺の気温が異なることで起こるので、1日の中でも日中と夜間を比べれば同じことが言える。コミケットの会場においても、時間によって気温は全く違ってくるのだから、当然それぞれの気温で快適な服装は異なってくるという理屈だ。

会場である東京ビッグサイトの周辺は海で、待機場所の多くはコンクリートや砂利敷きの地面だ。東京の年末周辺の過去の気温を少し調べてみると、待機開始時間となる午前5時台の平均気温は3℃前後。対して一般入場がフリーとなった午後の気温は年によってばらつきがあるものの、概ね10℃前後である。しかし、実際には未明にはビッグサイト周辺には風が吹くことが多く、それによって体感気温はさらに下がり、逆に日中は陽射しによって実際の気温以上に暖かく感じられる。衣服の選択という面から見れば早朝と昼間の温度差はかなり大きく、それぞれの環境にふさわしい服装は大きく異なってくるので、見誤ると寒かったり暑かったりと苦労することになる。自分の参加時間を把握しよう。

